

これはアストラゼネカ英国本社が2004年4月29日に発信したプレスリリースの日本語訳です。日本で未発売の製品については英語表記のままとします。

AstraZeneca PLC 2004年第1四半期業績

「第一四半期売上高は50億ドル超。年間財務目標達成は予定通り」

ファイナンシャルハイライト

グループ	第1四半期 2004 100万ドル	第1四半期 2003 100万ドル	前年 同期比 %	恒常 為替 %
売上高	5,074	4,735	+7	-1
営業利益	1,079	1,272	-15	-20
税引前利益	1,108	1,293	-14	-20
1株当たり利益	\$0.47	\$0.54	-13	-19

伸び率は恒常為替ベース (CER)

- 第1四半期の売上は50億ドルを超え、当社の四半期売上の最高を記録しました。
- 予想通り、2003年第1四半期の米国における大幅な卸在庫増および特許切れの影響がなお継続していることにより、2003年第1四半期に対する売上成長率はマイナスとなりました。
- 卸在庫変動の調整後、主な成長製品の売上は推定34%増でした。
- 営業利益は、研究開発費と販売費・一般管理費への投資が2003年第4四半期と同レベルに維持されたため、20%減でした。
- Crestor™ の第1四半期の売上は1億2,900万ドルに達しました。4月16日終了週のCrestor™ の米国スタチン市場の新規処方シェアは6.2%でした。
- 第1四半期、セロクエルの米国の新規処方マーケットシェアはOlanzapineを上回り、現在、当製品は非定型抗精神薬市場の第2位にランクしています。
- Nexium™ の第1四半期の売上は9億3,500万ドルでした。米国以外の売上は36%増加しました。米国の総処方件数は19%増加しました。
- Symbicort™ の売上は31%増の1億8,800万ドルでした。
- オンコロジー製品は好調で、19%の売上増を達成しました。イレッサの第1四半期の売上は9,300万ドルに達しました。アリミデックスの売上は62%増加しました。Faslodex™はEUにおいて進行・再発乳がんの治療薬としての承認を取得しました。

最高経営責任者トム・マキロップ卿は次のように述べました：当社の成長戦略は予定通り進捗しており、年間財務目標は達成可能と考えています。Crestor™、Nexium™、セロクエル、Symbicort™、イレッサ およびアリミデックス が過去最高となった当第1四半期の売上に寄与し、主な成長製品の需要は34%増となりました。しかし、営業利益は、研究開発および新製品発売への継続的な投資を行ったため、卸在庫増がプラスの影響を及ぼした2003年の第1四半期と比較して、減少しました。

2004年4月29日

Media Enquiries:

Steve Brown/Edel McCaffrey (London)
Staffan Ternby (Södertälje)
Rachel Bloom-Baglin (Wilmington)

(020) 7304 5033/5034
(8) 553 26107
(302) 886 7858

Analyst/Investor Enquiries:

Mina Blair-Robinson (London)
Jonathan Hunt (London)
Staffan Ternby (Södertälje)
Ed Seage/Jörgen Winroth (US)

(020) 7304 5084
(020) 7304 5087
(8) 553 26107
(302) 886 4065/(212) 579 0506

ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート (CER)

第1四半期の売上は、為替の影響（プラス8%）を含む報告ベースで7%増でした。米国以外の売上は6%増でした。米国の売上は、卸による4億ドルの投機的な購入を含む2003年第1四半期に対し、8%減少しました。在庫の変動を除外すると、米国の総需要は6%増、主な成長製品の全世界の売上は約34%増と推定されます。

第1四半期の研究開発費および販売費・一般管理費合計は28億4,900万ドルで、2003年第4四半期の水準を下回りましたが、2003年第1四半期よりも13%増加しました。製品の上市と研究にこの水準の投資を維持したことで、2004年第1四半期の営業利益は20%減となりました（報告ベースでは15%減）。第1四半期の1株当たり利益は2003年の0.54ドルに対して2004年は0.47ドルでした。

Nexium™ の第1四半期の売上高は7%増の9億3,500万ドルでした。米国以外の売上は36%増でした。米国の総処方件数は第1四半期に19%伸長し、PPI市場の成長率を大きく上回りました。

Crestor™ の第1四半期の売上高は、米国の7,200万ドルを含む1億2,900万ドルでした。4月16日終了週で、Crestor™ の米国スタチン市場の新規処方シェアは6.2%でした。最近のCrestor™ の発売国にはフランス（3月8日発売）、イタリア（4月5日発売）などがあります。

オンコロジー製品の第1四半期の売上高は19%増の7億6,200万ドルでした。アリミデックスの売上は、早期乳がん治療薬としての売上が引き続き伸長し、62%増でした。イレッサの売上は9,300万ドルでしたが、日本の売上は2003年の第1四半期に対し50%増加しました。

呼吸器製品の売上高は6億4,800万ドルでした。Symbicort™ の売上は31%増でした。Pulmicort™ Respules™ の米国での処方方は22%伸長しました。

セロクエルの第1四半期の売上は2%減の4億4,800万ドルでした。これは、2003年第1四半期の米国における卸在庫の変動によりマイナス影響を受けたためです。第1四半期の米国の処方方は36%増でした。セロクエルは、最近olanzapineを抜き、現在米国の抗精神薬市場の新規処方シェアにおいて2位にランクしています。セロクエルの米国以外の売上は14%増でした。

12月には、欧州と米国でExanta™ の最初の主な長期使用の適応症（心房細動を伴う脳卒中の予防など）に関する承認申請が行われ、現在薬事当局による審査を受けています。

今後の見通し

当社は、引き続き1株当たり利益は2.00ドルから2.15ドルの間を予想しています。今年の利益の半分以上および2003年に対する1株当たり利益増の大部分は、3つの要因の影響により、今年の下半期に計上されると考えています。第1に、依然として継続している特許切れの影響は時間の経過と共に減少していくと思われず。第2に、四半期毎の報告ベースの売上比較は引き続き2003年のパターンに影響を受けるものの、米国での在庫管理契約の実施により、報告ベースの売上を処方傾向により近づけることができると考えられます。最後に、研究開発費および販売費・一般管理費への投資は2003年下半期に増加したので、これらの経費の伸長率は時間の経過と共に減少すると思われず。以前にもお知らせしているように、実際達成される利益は、為替レートの変動およびNexium™、Crestor™、セロクエルの売上により、敏感に影響を受けると考えています。

注意: 当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、Crestor™、Nexium™、セロクエル、Symbicort™、アリミデックス、イレッサ）、Exanta™の承認取得、上市の成功、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確実要素です。これらやその他のリスクや不確実要素については、2003年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

伸び率は恒常為替レート (CER)

消化器

	第1四半期		CER %
	2004	2003	
Nexium™	935	835	+7
Losec™ / Prilosec™ (オメプラール)	540	692	-32
合計	1,496	1,545	-10

- Nexium™ の米国以外の第1四半期の売上高は36%増でした。欧州の売上は34%増、特に、フランスでは50%増を達成しました。
- Nexium™ の米国の第1四半期の総処方件数は19%伸長し、後発品を除くPPI市場の伸び(10%)を大きく上回りました。総処方件数のマーケットシェアは3月に過去最高の25.6%に達しました。当第1四半期に少量の卸在庫増が発生しましたが、2003年第1四半期のレベルよりもはるかに低いものでした。結果として、報告ベースの米国のNexium™ の売上に実質的な増減はありませんでした。
- Prilosec™ の米国の売上は68%減でした。これは、オメプラゾール後発品による本製品のマーケットシェアの低下とPrilosec™ OTCの伸長によるオメプラゾール処方の減少によるものです。
- Losec™ の米国以外の売上は、欧州での売上減が一部アジアパシフィックでの売上増により相殺されたため、6%減となりました。

循環器

	第1四半期		CER %
	2004	2003	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	333	368	-13
Atacand™	209	206	-9
Plendil™ (スプレンジール)	111	110	-6
ゼストリル	105	108	-16
Crestor™	129	3	n/m
合計	1,055	969	+1

- Seloken™/Toprol-XL™ の第1四半期の売上は13%減でした。これは2003年第1四半期に大幅な卸在庫増のあった米国のToprol-XL™ がその対比で17%減となったことを反映しています。当第1四半期は、米国のToprol-XL™ の処方が昨年比21%伸長し、ベータ遮断剤市場の成長率(10%)を大きく上回りました。
- Atacand™ の売上は米国以外で15%増でした。競合の激しい米国のアンジオテンシン受容体拮抗剤市場でAtacand™ の処方に殆ど変化はありませんでした。米国の報告ベースでの売上が33%減少したのは、当第1四半期の在庫増で一部相殺されたものの、2003年第1四半期の卸在庫の増大によるものです。
- Crestor™ の第1四半期の売上は1億2,900万ドルに達しました。米国では2004年第1四半期に調剤された処方100万件を超えるまでに伸長しましたが、工場出荷ベースの売上がこの処方需要を反映し始めたため、米国の売上は7,200万ドルに増えました。
- 米国のスタチン製剤市場で、4月16日終了週に、Crestor™ の新規処方シェアは6.2%でした。新規患者および他剤からの切り替え患者のシェア(ダイナミックシェア)は、より高い16.3%でした。

- Crestor™ の総処方件数のマーケットシェアはカナダでは8.9%に、オランダでは8.8%に、英国では3.0%に伸長しました。最近では、Crestor™ はフランスで3月8日に、イタリアで4月5日に上市されました。
- 発売以降、当社は、Crestor™ の処方が400万件調剤されたと推測しています。広範な臨床試験のデータベースと詳細な市販後調査によってCrestor™ の安全性は他の市販スタチン製剤と同様であることが確認されています。

呼吸器・炎症

	第1四半期		CER %
	2004	2003	
Symbicort™	188	122	+31
パルミコート	282	251	+5
Rhinocort™	81	90	-13
アコレート	30	31	-6
Oxis™	25	31	-32
合計	648	563	+4

- Symbicort™ の第1四半期の売上は31%増でした。好調な売上に寄与している要因として、全般的な用量定配合剤市場の継続的成長、Symbicort™ の新用量発売およびCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の適応追加があります。
- パルミコートの全世界の売上は、主に米国のPulmicort™ Respules™ の伸長により、5%増でした。米国ではPulmicort™ Respules™ の総処方件数は2003年第1四半期に比べ22%増加しました。
- 米国のRhinocort™ Aquaの処方件数は第1四半期に9%増加し、総処方件数のマーケットシェアは昨年第1四半期に比べ微増でした。2003年第1四半期には在庫増がありましたが、当第1四半期はある程度の在庫減があったため、米国の報告ベースでの売上が18%減となりました。

オンコロジー（がん領域）

	第1四半期		CER %
	2004	2003	
カソデックス	229	189	+9
ゾラデックス	213	193	-1
アリミデックス	166	93	+62
イレッサ	93	19	n/m
Faslodex™	26	22	+18
ノルバデックス	31	61	-56
合計	762	581	+19

- カソデックスの米国での処方件数は前年比ほぼ同じでしたが、2003年第1四半期に卸在庫が増加したため、報告ベースの売上は7%減でした。米国以外の売上は日本の30%増を含む16%増でした。
- アリミデックスの第1四半期の売上は、早期乳がんの使用が伸びているため、62%増となりました。米国の第1四半期の売上は、卸在庫減少で抑制された2003年同期の売上に対して88%増でした。アリミデックスの米国での処方件数は45%伸び、3月の乳がんのホルモン療法剤市場でのアリミデックスのシェアは昨年3月から4.8ポイント増えて21.3%でした。対前年同期比でアリミデックスの欧州の売上は49%増、日本の売上は46%増でした。

- イレッサの第1四半期の日本の売上は昨年同期比50%増の2,700万ドルでした。米国の売上は5,100万ドルでしたが、ある程度の卸在庫を含んでいます。イレッサの第1四半期の小売処方方は前年同期比8%増の22,000件強でした。
- Faslodex™ の売上は米国で9%伸びました。当社はFaslodex™ が進行・再発乳がんの治療薬としての承認を欧州で取得したことを3月12日に発表しました。

ニューロサイエンス

	第1四半期		CER %
	2004	2003	
セロクエル	448	444	-2
ゾーミッグ	95	108	-18
ディプリバン	122	136	-15
局所麻酔	130	101	+14
その他	17	18	-17
合計	812	807	-5

- セロクエルの米国市場での処方方は依然として堅調で、2003年第1四半期に比べ更に36%伸長しました。セロクエルは非定型抗精神薬市場の上位3製品のなかで最も成長率の高い製品で、第1四半期にはolanzapineを抜いて月次新規処方において24.5%のシェアを有する市場第2位の製品となりました。
- セロクエルの米国の売上は報告ベースで6%減でした。これは2003年第1四半期には大幅な卸在庫の増加があったためです。
- セロクエルの米国以外の売上は、カナダとドイツで50%増となり、14%増加しました。イタリアの売上は25%増でした。
- ゾーミッグの欧州の売上は25%伸びました。米国では、販売経路が変わり、本製品はMedpointe社（米国市場における販売・マーケティングを担当する販売会社）に対して昨年のアストラゼネカの工場出荷価格よりも低い契約価格で販売していることから、売上は33%減でした。

地域別売上高

	第1四半期		CER %
	2004	2003	
米国	2,279	2,470	-8
欧州	1,875	1,555	+2
日本	290	243	+6
その他地域	630	467	+21

- 米国では、2003年第1四半期の卸在庫増のため報告ベースの売上高は8%減でした。需要は全体で6%増、後発品の競合に影響を受けた3製品(Prilosec™、ノルバデックス、ゼストリル)を除くと27%増と推測されません。
- 欧州の売上高は、Nexium™ (34%増)、Symbicort™ (25%増)、アリミデックス(49%増) および Crestor™ が欧州全域にわたる価格の下落を相殺し、2%増加しました。
- 日本の売上高は、オンコロジー製品（26%増）とオメプラール（18%増）が寄与し、6%増加しました。

ファイナンシャルレビュー

伸び率は恒常為替レート (CER)

営業実績

報告ベースで売上高は7%増、営業利益は15%減でした。恒常為替ベースで、売上高は1%減、営業利益は20%減でした。

前述のとおり、2003年第1四半期の米国の売上高は卸による相当の投機的購入を含んでおり、在庫レベルを通常より4億ドル程度引き上げる結果となりました。2004年第1四半期、当社の米国の売上の約4分の3を占める米国の大手卸3社との在庫管理契約を実施し始めました。この契約は第1四半期の全期間に及ぶものではないため、第1四半期に現行の需要を上回る購入（推定1億ドル）が発生しました。第1四半期終了時点で、全体として、主にNexium™、Toprol-XL™ および Atacand™ に関して、流通チェーンに目標レベルを超える約2億ドルの在庫があったと当社は推定しています。この在庫は今後6ヶ月間で徐々に減少すると考えています。

米ドル安は引き続き当社の業績にプラス影響を与えています。昨年 の第 1 四半期に比べて、米ドルはユーロに対して 14%安となり、売上に対してプラス影響を与えました。一方、米ドルはスウェーデンクローナに対し 14%安、英ポンドに対し 13%安となり、コスト高の要因となりました。全体として、昨年の第 1 四半期に比べ、為替の影響で 1 株あたり利益は約 3 セント増加しました。年末まで為替レートが現在のレベルで推移すれば、更なる為替差益が発生することは期待できません。

第 1 四半期の売上総利益率は 1.4 ポイント増の 77.4%でした。これは、製品構成の差により、メルク社に対する支払い比率が対象売上の 5.6%にまで低下（売上高比 1.4%低下）したためです。為替による影響（0.3%減）は売上原価の改善により、相殺されました。

営業利益率の前年との比較は、四半期毎の売上が前年と顕著に異なるため、歪曲されています。2003年第1四半期の売上（昨年売上の最も高かった四半期）に対する営業利益率は、卸の在庫増が営業利益に直接影響を与えたため、26.9%でした。2004年第1四半期の営業利益率は21.3%でした。研究開発費および販売費・一般管理費の増加が、両期間の営業利益率の差異の約半分に寄与したと推定されます。

全体として、製品発売経費ならびに創薬研究・開発担当者増員のための経費が昨年下半年に達した水準で維持されたため、研究開発費と販売費・一般管理費は28億4,900万ドルでした。昨年の第1四半期に対する上昇率は恒常為替ベースで13%でしたが、為替レートの影響10%を含む報告ベースでは23%でした。

利息

当第1四半期の正味利息・配当収入は2,900万ドル、昨年同期は2,100万ドルでした。この改善は、主に、2003年半ばに3億1,900万ドルの負債返済を行ったことによる2004年第1四半期の支払い利息減少によるものです。

税金

第1四半期の実効税率27.5%は昨年の第1四半期と同じ水準でした。

キャッシュフロー

例外的項目調整前の営業活動によるキャッシュフローは12億7,600万ドルで、営業利益が減少したにも拘らず、2003年第1四半期よりも1億200万ドル増加しました。これは、2003年の卸在庫の変動による債権増加の反動として、今年は運転資本が減少したのが原因です。納税額は前年とほぼ同額でしたが、当第1四半期は資本支出が前年同期よりも3,700万ドル減少しました。財務活動および現金・現金同等物前正味キャッシュフローは昨年より1億4,900万ドル増えて7億2,000万ドルでした。

株の買い戻しプログラム

取締役会は、マーケットアクセスが継続することとキャッシュの戦略的使用がないことを前提に、期間を2005年末までとする新たな40億ドルの買い戻しプログラムを承認しました。

当第1四半期中に、総額6億800万ドルで普通株式1,250万株が買い戻され消却されました。

2004年3月31日現在、発行株式は16億8,100万株です。

今後のマイルストーンおよび主なイベント

7月22日	第2四半期業績発表
10月6日	アニュアル・ビジネス・レビュー会議
10月21日	第3四半期・9ヶ月間業績発表

トム・マキロップ卿
最高経営責任者